

令和元年度 第2回能勢町子ども・子育て会議  
議事録

日時	令和元年 10月16日(水) 10:00～:11:45
会場	浄るりシアター 研修室
出席者	委員： 小島会長・樺山副会長・宇佐美委員・八木委員・植田委員・三浦委員・高井委員・市村委員・三島委員・三好委員【計10名】 オブザーバー： ——
傍聴者	2名
事務局	健康福祉部： 瀬川 寛・藤原 伸祐・西村 由紀子・上森 洋祐・岩崎 賢太 教育委員会： 寺内 啓二・古畑 まき・辻 新造

次第

- ・開会
- ・案件
  - ①量の見込みと確保方策（素案）について
  - ②次期計画骨子について
  - ③その他
- ・閉会

---



---

**案件①量の見込みと確保方策（素案）について**

三浦委員	p.8の放課後児童クラブとアフタースクールについて、量については記載のとおりだが、どのような内容や質、資格者を確保するか教えてほしい。
事務局	放課後児童クラブについては、1支援あたりの児童数を40名とし、支援員2名以上の配置となっていることから、児童数の見込み70名に対して3.5名の支援が基本となるが、5名体制を確保している。支援員は保育士や研修を受けた人のほか、今年度から養護教諭が入り、支援を要する児童の対応に当たれるようにしている。必要に応じて6名体制をとることもある。
三浦委員	アフタースクールについて活動の質や安全などは、どのような考え方がか。
事務局	資料2のp.3「アフタースクール」の欄に記載しているとおり、小学生はアフタースクールⅠ、中学生はアフタースクールⅡという区分で、それぞれコーディネーターや地域の支援員、職員などが子どもたちの活動を支援している。毎月スケジュールを提示し、子どもたちが自分で行きたい活動を選んで参加するという形態であり、学童の途中でアフタースク

	<p>ールに参加するなど、学童とも連携しながら行っている。週 2 回の自主学習は、30～40 名の子どもに対し、3～4 名の学習指導ボランティアがついている。地域での体験活動は月 1 回程度行っている。</p> <p>低学年の子どもの中には学童とアフタースクールの違いが分からない子もいるので、福祉と連携しながら行っている。</p> <p>1 回ごとで終わるのではなく、継続的な活動を行うことも課題と考えており、浄瑠璃や卓球など、活動期間を半期ごとにしたものもある。</p> <p>中学生では、クラブ後の 17 時半から 19 時の時間帯で、帰宅の送りも行っていることから東地域の生徒の参加が増えた。</p>
小島会長	アフタースクールと学童を上手に使いえば両方参加できるのが良いと思う。
三浦委員	未就学児の一時預かりなども行っているが、学校に行くことと学童に行くことになり、その移行時に保護者の就労状況などにより、ハードルがあることもある。そのような子どももフォローしていかないといけない。

## 案件②次期計画骨子について

三浦委員	資料 2 の子育て支援事業実施状況の一覧表で、次期に向けた方向性が空白になっている事業について状況を教えてほしい。
事務局	空白の事業については、現時点で周辺市町との調整や関係課で検討中の段階であり、次回会議までに方向性を提示する予定としている。
宇佐美委員	<p>ファミリーサポートセンターについては、現在の利用状況を前提に量の見込みなどを機械的に出されていると思うが、当日資料のファミリーサポートセンターのアンケートを見ると、利用したいが希望する提供者が見つからない人もあり、今の状態では利用できないがニーズはあると思うので、「継続」というより「拡充」という方針で実施してほしい。</p> <p>子育て家庭では、預けられる選択肢が多い方が子育てしやすい。ファミリーサポートセンターも選択肢の一つであり、ファミリーサポートセンター活動が盛んな地域では利用も多い。利用者だけでなく協力会員にとっても、やりがいや地域活動の場にもなり、シニアと子どもが繋がるまちづくりという面も重視したら良いと思う。</p>
事務局	ニーズはあるがマッチングできていないという実態も認識しており、拡充の方向性についても検討したい。
小島会長	選択肢が少ないと子育てしにくいし、自分に合うサービスや人とマッチングできれば利用しやすくなる。ファミリーサポートセンターが広がることで、子どもに関心のあるまちづくりになると思う。
宇佐美委員	都市部と比べると人口の差や高齢化の影響もあり、提供できる人の数が少ないというのは仕方がないという面もあるが、子育てしやすいまちをアピールするのであれば、数に負け

	<p>てはいけないと思う。いろいろな機会周知して、登録する人の率を上げるなど、取り組めることはある。アンケートの回答を分析し、ファミリーサポートセンターを利用しない理由としてマッチングできないことがあるのであれば、それはシステムの問題でもあるので、利用しやすいシステムを作るのが行政の仕事だと思う。システム上の課題を解決してマッチングが上手くいけば、利用は広がる。親族に頼れない人にとって、施設でまかなえない保育を補うのがファミリーサポートセンターであり、必要なものである。また、信頼できる人間関係ができるのは子育てする上での安心にもなる。</p>
小島会長	<p>今は親の助けがある人でも、将来的に親の働き方も変わっていくかもしれない。そういう状況に対応していかないといけない。</p>
三浦委員	<p>資料2の一覧を見ると、非常に多くの大変な事業をされていて、マネジメントが必要になってくると思う。これらの事業は、子どものための視点や親の援助の視点などがあり、それぞれ分化して多岐にわたる事業となっているが、これらを一本化して見やすくしたり、子育てサロンも統合することで、相互に把握しやすく連携しやすくなるのではないかと。家にいる母親や働いている母親など、女性の状況に合わせて支援を展開しないといけないと思う。町内にはいろいろなサロンがあり、子どもたちは毎回違うサロンに行ったりしている。子どもにとっては安穩とできる場所、サークルなどがあれば良いのではないかとと思う。</p>
小島会長	<p>子どもの立場に立って、多くの仕事を整理していただきたい。親の安心や、子どもの育ち、子どもの力を引き出すため、一つの路線に乗った整理をしていただければと思う。</p>
三浦委員	<p>ほっこりで各家庭に訪問されているのも、大変な作業だと思う。</p>
植田委員	<p>一時預かりについて、利用者が少ないが、子育て中のママ友に聞いてみると、預かりに必要となる荷物がとにかく多いので預けるのをためらうといった意見がある。現状では布団やすべての荷物を持たさなければいけないが、保育所側で用意できるものがあれば、もっと身軽に利用でき、利用が増えるのではないかと。</p> <p>また、理念に「能勢町で子育てしたいと思えるまちづくり」とあるが、それを掲げるのであれば、他の市でできているものは能勢町でもできて当たり前で、さらに能勢町だからできることに取り組む必要があるのではないかと。能勢町には畑や自然環境などの資源があり、みどり丘幼稚園には、そのような地域資源を活かした活動のために、わざわざ町外から子どもが来ている。能勢町ならではのものを掘り下げるのが大事だと思う。</p>
事務局	<p>一時預かりについては、衛生上などの観点から荷物の持参をお願いしているが、ご意見を踏まえ、身軽に利用しやすい方策についても検討したい。</p> <p>理念について、地域の資源や人材について、文言を考えたい。</p>
三島委員	<p>能勢町だからできることを掘り下げるのは良いと思う。小学校でも、豊かな学びを目指しているが、能勢町では学校が一つにまとまっているため、丁寧に指導できる教育環境がある。英語教育も毎週先生に来ていただけるなどのメリットがある。</p> <p>私の住んでいる地域の親の会で、引っ越し先の考え方を聞くことがあるが、教育環境で決める人が多い。高校や大学進学など、先を考えて決めているようだ。そう考えると、こ</p>

	の計画の対象が18歳までとあるにしては、高校生の視点が少ないように思う。勉強、スポーツ、芸術など、やりたいことができる環境や、能勢でしかできないことに特化していくことは、施策体系の一つとして重点課題になるのではないか。どのような学び、ニーズに叶うか考える必要がある。
植田委員	子育て中の人々が引っ越しして出ていききっかけで一番大きいのは高校受験だと思う。町内には高校が一つしかなく、いつまであるのかもわからない。町外の大阪府内の高校は遠く通わせるのも大変。川西など県をまたいで通学できるのならもっと選択肢は広がり、子育てしやすくなると思う。
小島会長	すぐに対応できるものではないが、長期的な課題として、このようなご意見があったことを認識していただきたい。

---

### ③その他

- ・幼児教育・保育の無償化に関する広報資料の説明
- ・ほっこり活動報告資料、秋の子どもイベント資料の説明
- ・今後のスケジュールの説明

質疑なし

以上。